

静岡県教育長賞

「おもう」

静岡市立井宮小学校 六年

大村 弥市



姉から出された問題。

あなたはこれから世界を平和にするための戦に出かけます。

さて、どんな「やり」を持っていきますか。三択です。

① あつかいやすい、軽くて短いやり

② 一撃でひびく、おもいやり

③ 敵が近づく前に戦える、鋭くて長いやり

なんで「やり」しか持っていけないの、と思いつつ、ぼくが出した答えは③。だって戦うことになったら自分が攻撃を受け

ずに敵を倒せると思ったから。

でも、姉の言った答えは、②。

「みんなが相手の心に一撃でひびく思いやりを持って接すれば、争い事なんてなくなつて平和な世界になるでしょ。」

してやったりと言わんばかりの笑みをうかべる姉を見て、やられたと思つたが、確かにその通りだと納得する自分がいた。

高校野球を見ていた時、キャッチャーがキャッチャーマスクを外してボールを追いかけた。土の上に放り出されたマスクを

敵であるバッターが拾い、自分のももでマスクの土をふいてキャッチャーに渡した。ぼくはキャッチャーがボールを取れたかよりも、バッターの行動に釘づけになった。今、まさに戦っている敵に対して、自分の服を汚してまで拾ってあげるなんて、ぼくにはできない。敵だよ、敵。でもこの時、姉に出された問題を思い出した。バッターは、対戦相手に思いやりを持ち、正々堂々と野球で勝負をしているんだなと思った。

話は変わって、ぼくは夏休みの終わりにキッズフリーマーケットに出店することになっていた。手作りの物を売る。ぼくは樹脂粘土で動物や食べ物を作る事が好きなので、それを作って売る事になっていた。ぼくの頭の中は、もうけておこづかいを増やす事でいっぱいだった。何を考えるわけでもなく、好きな物を好きなように作っていた。

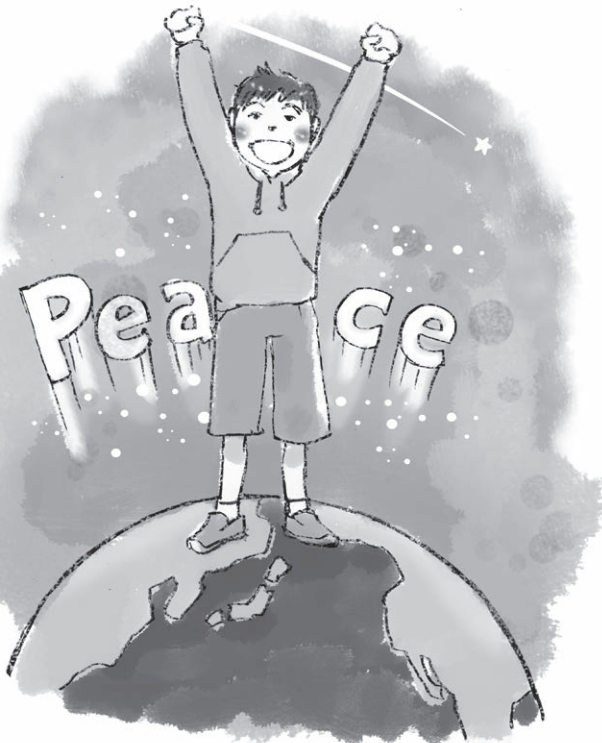
でも、高校野球を見てはっとした。相手を思う気持ち。ぼくは、もうけることや、自分が作りたい物だけを作って、お客さんのことを何も考えていなかった。

どんなお客さんが来るんだろう。どんな商品があれば喜んでもらえるだろう。値段はどのくらいがいいだろう。男の子にも女の子にも手に取ってもらうには…。いろいろ考えていたら作るのがどんどん楽しくなってきた。

キーホルダーやマグネットやしおりを五十個ぐらい作った



静岡県教育長賞



頃、コロナで無期延期のお知らせが来た。すごく楽しみにしていたし、がんばって作っていたのでくやしかった。でも、思いを込めて、相手を思いやって作品を作れたことはとてもよかった。それだけで心があたたかくなった。相手を思うということが小さな親切の第一歩だと思う。

みんなで『おもいやり』をもって世界を平和にする戦に出かけたい。